

善養寺便り

第一号(平成二十六年六月号)

発行 善養寺

◆住職あいさつ

善養寺第十九世住職 江尻 裕史

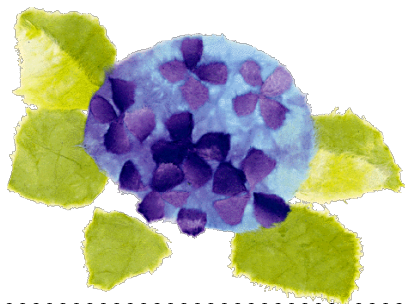
改めて新任職としてご挨拶申し上げます。

まずは、四月の永代経法要、五月の仏教婦人会総会には多くの方々にお参りいただきありがとうございます。改めて、住職としての責務を感じた次第です。

平成二十四年四月に継職法要を勤修させていただき、今年度より三十年間勤めました教職を退職し、名実ともに当山の十九代目の住職として、日々法務を勤めてさせていただいています。

前住職は四十余年の長きにわたり住職として当山のご法義隆盛に努めてまいりましたが、幾多の門信徒の皆様のお陰により今日の善養寺があります。私にはこれからの時代の住職として当山の法灯をいかに受け継いでいくかが大きな課題でございます。奇しくもこの度西本願寺におきまして、この六月六日に即如ご門主から専如新門様への法統継承式が行われ、ご門主が交替なされました。時代の変化は年々激しく、価値観の多様化は益々顕著な時代です。お寺を取り巻く状況も大きく変わっております。そんな時代ではありますが、南無阿弥陀仏と手を合わせ、仏縁に遇わせていただく尊さを次の世代に伝えていくのは私どもの責任でもあり、門信徒のすべての皆様方にもお願いしたいこととさせていただきます。

新坊守共々今後とも何卒よろしくお願いいたします。



◆行事案内

行事の時は門徒式章をお持ちの方はご用意ください。

七月

仏教婦人会 第二回仏教講演会

今年度第二回目の仏教講演会を左記の日程で開催します。先日近畿地方も梅雨に入り、しばらくは蒸し暑くじめじめした日が続きそうです。NHKで雨季はウキウキする季節でないと云ってました。そんな季節ですがどうか一人でも多くの皆様にお越し願いたいと思います。

七月二日(水) 午後一時半より

善養寺本堂

講師 谷川弘顕先生

八月

盆会・万灯会法要

〈盆会法要〉

八月十五日(金) 午前十時より

善養寺本堂・納骨堂

〈万灯会法要〉

八月十五日(金) 午後六時より

善養寺墓苑(八代宮前町)

御名号碑前・墓苑内 (小雨決行)

「盆会」は正式には「盂蘭盆会」と言っており、「盂蘭盆経」というお経の故事から「お盆」が起こったといわれています。日本では先祖崇拜の風習と結びついて年中行事の一つとなり、一般には先祖供養のための仏教行事となっております。

私たちの浄土真宗では納骨堂やお墓をお参りすることで、数限りないご先祖によってこの私の命が恵まれたことを慶び、仏法をより所に力強い人生を歩むことの大切さを知る機会ととらえていただければと思います。暑い中ですが、どうぞご家族全員でお参りください。

◆平成二十六年年度護持会会費、仏教婦人会会費ご納入のお願い

別紙の通り、今年度の護持会費と仏教婦人会会費をご納入していただく時期となりました。護持会費は、主として本山賦課金並びに本堂の火災保険料に充て、仏教婦人会費は、同総会と年五回の講演会の運営経費となっております。いずれも門信徒の方全員にお願いいたしております。何かとご多用の折でございますが、趣旨をご理解いただき何卒ご納入をよろしくお願い申し上げます。

◆仏婦コーラス大募集中

毎月第三金曜日午前十時より、本堂で練習しています。納骨堂のお参りを兼ねて、買い物ついでに・・・など。人数が増えるともっと楽しくなります。歌うことは、頭の活性化、ストレス発散になります。どうぞお気軽に参加してください。

◆お経の話

日頃お勤めするお経の中で、特に月参り等でお勤める短いお経に「重誓偈」があります。

「我建超世願 必至無上道 斯願不満足 誓不成正覚」の言葉でこのお経ははじまりますが、最初の「我」とは文字通り「私」という意味です。

では、その「我」とはいったい誰のことでしょうか。この部分を、日本語書きすると次のようになります。

「我れ超世の願を建つ、必ず無上道に至らん。斯の願満足せずは、誓いて正覚を成らじ。」

(訳)「私は世に超えたすぐれた願を建てた。必ずこの上ないさとりを得よう。この願を果たさないようなら、誓って仏にはならない。」

「私」とは「法蔵菩薩」という仏様です。法蔵菩薩はすべての衆生を救いたいという誓いを重ねてお建てになり、永い永い時を経て阿弥陀仏となられたのです。「重誓偈」という

題名は法蔵菩薩の誓いという意味なのです。なお、「重誓偈」はご法事などでお勤めする「仏説無量寿経」に説かれています。



→ 仏婦コーラス

◆平成二十六年年度

善養寺仏教婦人会役員

(敬称略)

会長	龍本澄子
副会長	河野久美子
	坪田千津留
	坪田由香(山下)
会計	中橋英子
監査	坪田幸子 松岡三千代
仏婦備品管理	坂口栄子
旧中ノ町(北)	中橋英子
同(南)	田中和子
旧東ノ町(北)	西本眞知子
同(南)	松岡三千代
御茶屋町	神前やう子
富士才町	大原早百合
東光寺町	坪田美佐子 坪田由起子
新在家	田中妙子
西八代	安倍史子
南八代	赤鹿恭子 八木雅子
下野田	三木初美 三木晶子
山下	坪田理恵子 坪田典子
	坪田三千代 坪田まさる
	坪田直子

一年間よろしく申し上げます。

◆「善養寺便り」は以前発行してました「仏婦だより」を受け継ぎ年4回の発行を目指して作成したいと思います。